

コショウランの花を咲かせるための栽培法

2023年3月1日 作成

東南アジア（インド、タイ、ベトナム、インドネシア、ニューギニアなど）の熱帯・亜熱帯の森林の中で樹木の上や苔の生えた岩の上に着生している。この気象条件を念頭に栽培する。日本では、冬季の低温と夏の強い日差しを避けることが重要。表面が完全に乾いたら（前の水やりから4～7日後）水を与える。ぬるい湯（20～25℃程度）をシャワーでたっぷり与える。

- 1 置き場所は、陽光が当たる場所でレース越しや木漏れ日のある場所が良い。炎天下に放置するのは葉焼けを起こすので厳禁。置き場所の気温は最低でも10℃以上ある場所（冬季はテーブルの上など）。あまり高温（35℃を超える）も良くない。
- 2 肥料は、多く与える必要はなく、肥料粒が根に触ると根が枯れる。5月～9月は化学肥料6-6-6（窒素・リン酸・カリ）を与える（ハイポネックスの洋ラン用液肥の1000倍液）。開花促進のため9～10月にはリン酸・カリの割合の高いものを与える（ハイポネックス開花促進用0-6-4）。
- 3 花芽（花茎）が着くのは、低温（17～18℃以下）になったとき。10月～12月頃から葉の間から花芽（根に似ているが先端がとがっている）が出る。花茎は、1～2月にかけて伸び、いくつかの蕾が着く。秋から冬季は、可能であればレース越しの陽光をしっかりとあてる。蕾が大きくなる時期は、表面が完全に乾く前に水を与える。
- 4 カイガラムシが着くことがある。その場合は、歯間ブラシや爪楊枝で白いカイガラムシを取り除く。薬剤は住友化学のオルトラン水和剤などがある。
- 5 花が終わったら、花茎の付け根で花茎を切り取る。
- 6 葉がしなびてきたときは、水不足が原因かもしれない。冬季の低温で根が活発でないときに、冷たい水を与えると根が腐ることがある。葉がしなび始めたら、株を鉢から出して、根の様子を見る。根が腐っていれば、取り除き、植え直す。
- 7 コショウランの根は、鉢から外に伸びることがある。見栄えは悪いが、切り取らないでそのまま伸ばすのが良い（根から空気中の水分を吸う役割がある）。
- 8 鉢が素焼きかプラスチックか、材料がバークかミズゴケか、気温や湿度によって乾き具合が違っているので、水やりは機械的に与えないで、良く観察して与えるのが良い。透明のビニールポットに入れて育てると、緑色の生きた根が見えるので分かり易い。